令和7年9月30日発行 第16号

# 志木市後見ネットワークセンター便り

# 成年後見制度とは?

認知症や知的・精神障がいなどで判断能力が十分でないために、自分自身で 契約や財産管理等の法律行為を行うことが難しい場合、家庭裁判所から選任 された成年後見人等(保佐人・補助人含む)がその方の支援をする制度です。 家庭裁判



# 成年後見制度の利用者数は?

と推計されており、その数と比較しただけでも、

成年後見制度の利用者数は、3 類型(後見・保佐・補助)を合わせて約25万人となっています(令和6年12月末時点)。そのうち、後見の割合は約7割を占めています。制度を利用するのは、認知症高齢者のほかにも知的・精神障がい者などの判断能力の十分でない人も含まれますが、認知症高齢者数は現在約500万人

本来制度を利用すべき人に十分に行き届いていない現状があります。





成年後見制度をより多くの人が理解し必要な人が利用できるよう、 後見ネットワークセンターでは以下の取り組みを行っています。

# ○相談支援

成年後見制度や利用手続きなど、成年後見制度に関する相談に応じています。また、親族 後見人の相談支援も行います。

# ○法律相談

成年後見制度を始めたとした権利擁護に関する相談に無料で応じています。 金曜日の午後(月4回・予約制)、司法書士または弁護士が対応します。

# ○普及啓発

講演会や出前講座、親族後見人向けの交流会などを実施しています。

# ○市民後見人の養成・活動支援

成年後見人等の担い手を確保するため、市民後見人養成講座を開催し、 市民後見人の養成と育成を行っています。また、市民後見人の活動支援として、「市民後見人の集い」の運営支援をしています。



(市民後見人の集い)

# ●/01/0●/01/0●/01/0●/01/市民後見人養成講座→●/01/0●/01/0●/01/

令和7年6月~7月にかけて、全5日間実施しました。 6名が受講し、市民後見人として活動するために必要な 成年後見制度の仕組みや成年後見人の心構えを学びまし た。同じ地域で暮らす市民が、判断能力が不十分な高齢 者や障がいのある人に寄り添い、市民ならではの視点で 支えていくことが市民後見人としての強みです。

講座受講後、市民後見人として活動を目指す方は、引き続き研修を受けていただきながら、更なるスキルアップを図っていきます。



# ♪参加者の声♪

- 市民後見人として地域貢献したいと思った。
- 後見制度が予想以上に広まっていないことを知り驚いた。今後さらに必要になってくる制度だと感じた。
- 今までの生活では触れることのなかった色々な知識が得られた。
- それぞれの講義を受けて、市民の生活を守る為に様々な組織や人が携わっていることがよく分かった。
- ・身近な人たちに講座で得た知識を伝え、一人でも多くの人に後見制度について知っても らうことを、今後の自分の役割にしたいと思った。

# ~市民後見人Aさんにインタビューしました~

### 〇市民後見人養成講座を受講したきっかけは?

FP(ファイナンシャルプランナー)の資格を通じて、市民後見人の必要性を知りました。高齢者のみならず、認知症や障がいなどで支援を必要とする方が安心して暮らせる社会の一助となりたいと考えて受講しました。

#### 〇市民後見人として活動する中で心がけていることは?

いつも「本人に寄り添う気持ち」を大切にしています。丁寧に話を伺い、何か不安があるようであれば和らげる工夫をしながら、「本人がその人らしい生活を送る権利」を守れるよう心がけています。

#### 〇市民後見人に興味を持っている人に伝えたいことは?

市民後見人について少しでも気になっている方は、ぜひイベントにお越しください♪

### 「市民後見人と話してみよう!」

日時: 12月13日(土) 10時~11時30分

場所:マルイファミリー志木8階 市民会館仮設会議室



新しい一歩を踏み 出すきっかけにな ります!

発 行:志木市基幹福祉相談センター(後見ネットワークセンター)

連絡先:048-456-6021(直通)

E-mail: kikan-soudan@shiki-syakyo.or.jp 次回発行は、

次回発行は、令和8年3月予定です